

●平成23年度一般選抜後期日程についての講評等

【後期試験の基本的な姿勢】

宮崎公立大学国際文化学科が行う「総合学力試験」として、以下の3点を念頭において作題した。

- 1 地域社会が直面する国際的・文化的かつ現代的な内容を取りあげる。
- 2 内容の正確な理解に加え、得られた情報を活用して的確に判断する能力も問う。
- 3 自らの体験・価値観や具体的情報・知識を活用しつつ、合理的な評価並びに妥当な判断を「小論文」として説得的に表現・展開する技能と態度を問う。

問1は、下線部(1)のthis factが示す具体的な内容について問うことで、問題文の流れをよく理解しているかを確かめようとする問題である。

下線部(1)上の最初の文、Contrary to the common perception, the temporary stop of commercial whaling is not…に注目すれば、容易に解答に至ることができるはずである。

問2は、下線部(2) Japan's research whalingは筆者の強調する具体的な根拠を問う問題で、読みの正確さを試す問題である。

下線部(2)の次の段落が、The legal basis for the research whaling is…で始まっていることに着目すれば、容易に答えることができるはずである。

問3は、下線部(3) Whalingの内容を文脈から正確に読みとれているかを試す問題である。その解答は、問題文や解答欄に具体的に提示しているので容易に察しがつくはずである。

問4は、下線部(4) the scientific whaling as importantは、問題文の流れをよく理解できているかを確かめる問題である。前後の段落の内容をわかっているれば容易に答えることができるはずである。

問5は、問題文の結論の一部を日本語で説明することでこれまでの流れや筆者の伝えたい要点を的確に把握しつつ、正確に読解が行われているかを試す問題である。

以上問1～問5は、問われている内容に関係する英文をよく理解して、そのポイントを押さえながらいかにその答えをよく見つけたかという読解力が試されている。

このように英文の中から素早く情報を読みとるためには、1) キーとなる単語に気をつけながら英文に目を通す、2) 英文を速く読む力(語彙の知識、構文に関する知識)をつける、3) 普段から簡単な英文を多読する、の3点が大きなポイントとなる。

問6：小論文

- 1 答案内容は適切な段落分けをせず記述している答案が散見される。また、基本的な漢字の間違いや不適切な接続詞を使用する答案もある。論述文の基本的な書き方や不正確な日本語が表記された答案が多く見られるので、事前の学習が十分なされることを期待する。

- 2 記述内容が「課題」と合致しない答案が多く見られる。課題は、「日本による南極海や日本沿岸での捕鯨活動が、国際的に非難されていることに対して、あなたはどのように思うのか。日本はこう対応すべきだという自分の考えを論じる」ものであるが、課題に応じて答えていない答案は肯定的評価が得られない。
- 3 問題文2（英文）の内容理解が不十分なまま、主に問題文1（和文）の内容理解に基づいて論述を試みた答案が多くある。また、問1から問5まで正解を書いているのに、問6の課題に合わない論述をした答案も散見される。問題文1・2の正確な理解や読解を踏まえた上で、出された課題についての的確に論述することができることを期待したい。
- 4 小論文は、問題文のポイントとなる内容を踏まえ、受験生自身の体験や知識とも関連づけつつ、問題文にある定義や具体的な事例などを意識的に活用して、明晰かつ体系的に「自らの考え」を論述したものが高く評価される。自らの体験や知識をただ記述するだけの答案が散見されるが、「自らの考え」を明確にするためには自らの体験や知識を論述のなかにもう位置づけるかをよく考えて論述するのがのぞましい。